

Lampiran 1: Fungsi-fungsi Bahasa

Menurut Gorys Keraf dalam bukunya yang berjudul *Komposisi* (1994: 3—7), fungsi bahasa dapat diturunkan dari dasar dan motif pertumbuhan bahasa itu sendiri, yaitu jika jika ditinjau melalui sejarah pertumbuhan bahasa sejak awal hingga sekarang. Dasar dan motif pertumbuhan itu dalam garis besarnya dapat berupa:

1. untuk menyatakan ekspresi diri;
2. sebagai alat komunikasi;
3. sebagai alat untuk mengadakan integrasi dan adaptasi sosial;
4. sebagai alat untuk mengadakan kontrol sosial.

P.W.J Nababan dalam bukunya yang berjudul *Sosiolinguistik* (1991: 38—45) menuliskan bahwa bahasa sebagai alat komunikasi atau alat interaksi merupakan fungsi bahasa secara umum. Kemudian, dia membedakan fungsi bahasa menjadi empat golongan (fungsi bahasa sebagai komunikasi dikaji dalam kaitannya dengan masyarakat dan pendidikan secara lebih terperinci), yaitu sebagai berikut.

1. Fungsi kebudayaan, yaitu sebagai sarana perkembangan kebudayaan, jalur penerus kebudayaan, dan inventaris ciri-ciri kebudayaan.
2. Fungsi kemasyarakatan, yaitu berdasarkan ruang lingkup (bahasa kelompok/bahasa daerah, bahasa nasional, bahasa internasional, dan bahasa kerja, seperti bahasa kerja PBB yang belakangan ini diakui menjadi enam bahasa, yaitu Inggris, Rusia, Mandarin, Prancis, Spanyol, dan Arab) dan berdasarkan bidang pemakaian (bahasa resmi, bahasa pendidikan, bahasa agama, bahasa dagang, dan sebagainya).
3. Fungsi perorangan, terdiri dari tujuh fungsi, yaitu instrumental, menyuruh, interaksi, kepribadian, pemecahan masalah (*heuristic*), khayal, dan informasi.
4. Fungsi pendidikan, yaitu fungsi yang banyak didasarkan pada *tujuan penggunaan* bahasa dalam pendidikan dan pengajaran yang terdiri dari empat subfungsi, yaitu integratif, instrumental, kultural, dan penalaran.

Lampiran 2: Skrip Drama *Isshun no Kaze ni Nare*

Title : 一瞬の風になれ
 Title (romaji) : Isshun no Kaze ni Nare
 Format : Renzoku
 Genre : School, sports
 Episodes : 4
 Viewership ratings: 08.2(Kanto)
 Broadcast network: Fuji TV
 Broadcast period : 2008-Feb-25 to 2008-Feb-28
 Air time : Monday to Thursday 23:00
 Theme song : Hadashi no Cinderella Boy by NEWS

Production Credits
 Original writing : Sato Takako (佐藤多佳子) Isshun no Kaze ni Nare (novel)
 Screenwriter : Sato Hiroyuki
 Producer : Kurihara Miwako
 Directors : Mitsuno Michio, Takagi Kentaro (高木健太郎)

Tokoh:
 Kamiya Shinji 神谷新二 → Uchi Hiroki 内博貴 (1986.9.10-)
 Taniguchi Wakana 谷口若菜 → Fukuda Saki 福田沙紀 (1990.9.19-)
 Kamiya Kenichi 神谷健一 → Nishikido Ryo 錦戸 亮 (1984.11.3-)
 Ichinose Ren 一ノ瀬連 → Hasegawa Jun 長谷川純 (1985.10.29-)
 Negishi Yasuyuki 根岸康行 → Endo Yuya 遠藤雄弥 (1987.3.20-)
 Torisawa Keiko 鳥沢圭子 → Tanimura Mitsuki 谷村美月 (1990.6.18-)
 Momouchi 桃内 → Nakamura Tomoya 中村友也
 Kagiya Yoshito 鍵山義人 → Igarashi Shunji 五十嵐隼士
 Moriya 守屋 → Hojo Takahiro 北条隆博 (1986.5.25-)
 Miwa-sensei 三輪先生 → Uchimura Teruyoshi 内村光良 (1964.7-)
 Irie 入江 → Yamauchi Shuuichi 山内秀一 (1987.4.11-)
 Shinji no Chichi 新二の父 → Asano Kazuyuki 浅野和之 (1954.2.2-)
 Shinji no Haha 新二の母 → Nagano Satomi 長野里美 (1961.8.15-)
 Kono 河野 → Hirayama Hiroyuki 平山広行 (1979.10.17-)
 Semba 仙波 → Furuoka 古岡佑

Episode 1 (36:54)

一ノ瀬連: 新二。

神谷新二: あっ。 連。 どうだった？ 初日。

一ノ瀬連: 別に。

神谷新二: つうかさ 詰め襟じゃなくて この ブレザーってのが 高校生 にな
ったって感じしない？

一ノ瀬連: そうか？

神谷新二: けど 連が 春高に入るとは 思わなかったよ。 近いからな。 連なら
もっといい高校 陸上で行けたんじゃないの？ 推薦とかでさ。

一ノ瀬連: やだよ。 推薦なんかで入ったら 部活なんかやめらんねえだろ。

神谷新二: でも 陸上部には 入るんだよな？

一ノ瀬連: どうか？ お前は？ 高校でも サッカー やんだろ？

そうそう。

そういや こないだ お前の兄ちゃんに ばったり 会ったよ。 格好
いいよな。 やっぱ あの人。

神谷新二: スーパースターだからね。

一ノ瀬連: でも 全然 人の話って 聞かないんだよな。 あの人。

神谷新二: うん。 健ちゃんにとって 人間って 二つしかねえの。 サッカー
やるヤツと やらないヤツ。 親も そんなふうでき うちって 変か
も。 サッカーのこと以外 頭おやにないって家族。 変だよな。

一ノ瀬連: 新二は 違うの？

神谷新二: うん。 今は違う。 健ちゃんとは違って 才能がないって 分かって
んのにさ。 それは 努力が 足りないからだって 無理やり 自分に
言い聞かせてきて。 そういうのを また 高校で 3年間 続ける
ファイトがないんだ。 だから もう サッカーは やらない。 リセッ
トするんだ。

神谷新二: うわ! ?

三輪先生: どうだ？ 本 吸うか？

神谷新二: はあ! ?

三輪先生: 冗談だよ。 チョコレートだよ。 ほら。 食うか？

神谷新二: いえ。 結構です。

三輪先生: あっ そう。 じゃあ 俺 食うよ。

俺はな こう見えてもな 昔は ちょっとした ワルだったんだ。 見
えねえか？

神谷新二: は… はい。 あっ いえ。

三輪先生: どっちなんだよ？ えっ？

まあ ワルって言っても パシリだったけどな。 パンやお菓子を 買
いに行かされるわけだ。

で… 遅いと ぶん殴られるからよく走ったな。 あんとき。

神谷新二: それって イジメじゃないんですか？

三輪先生: で… その走りがな 陸上部の先生の 目に留まって。「お前の走り
は すごい。 スプリントをやれ」と 言われて

で… 無理やり ここの陸上部に 入れられて 現在に至ると。 とい
うわけだ。

神谷新二: あのう。 帰って いいですか？

三輪先生: 不良してるより 断然 面白かったな。

走るほうが 面白いて 気づかされたよ。練習したら その分 タイムが縮まるし 努力した分 結果が出ることの 喜びを 知ったからな。

 新二の母: 週に回くらいは こうやって家に帰ってこられるといいわね。

神谷健一: プロになったんだから そうは いかないよ。

新二の母: あら。 寮の食事より 母さんのほうが 自信あるわよ。栄養バランスも カロリー計算も ちゃんと 考えてるんだから。

新二の父: それは そうかもしれないけど チームの規律ってもんがあるんだからな。

神谷健一: お前 よく食うな。

神谷新二: 育ち盛りだからね。

新二の母: そうよね。Nいっぱい食べて 新ちゃんも 健ちゃんみたいに サッカーで 活躍してほしいわ。

神谷新二: サッカーは もう やらないよ。

神谷健一: えっ?

新二の母: どういうこと?

神谷新二: サッカーは もう やめたってこと。

神谷健一: 何だよ? 突然。

新二の母: そうよ。 せっかく 小さいころから頑張ってきたのに。

神谷新二: 突然じゃないよ。 いろいろ考えて やめることにしたんだ。

新二の父: サッカー やめて 何やるんだ?

[連 : お前 ボールなんて なけりゃ もっと速く 走れるのに。新二も走る?]

神谷新二: えっ?

連 : 俺 お前と かけっこ できんだったら 陸上部 考えてもいいよ。 思いきり 走るのって 気持ちいいぜ]

神谷新二: 陸上…。

新二の母: えっ?

神谷新二: 陸上やる。

新二の父: 陸上か。それも 悪くないかもしれないな。

神谷健一: 強いのか? そこ。 インターハイ 行けんのか?

神谷新二: インターハイ?

神谷健一: そう。 全国大会。

神谷新二: 健ちゃんらしい発想だね。

ううん。うちは そんなレベルの 学校じゃないし 俺は そこまで速いわけじゃないし。そんな。 インターハイなんて。

新二の父: 確かに 新二は 走るの 速いもんな。

神谷新二: 全然。 俺なんか…。

神谷健一: そういうふうにするなよ。お前の そういうとこ 感じ悪いんだよ。

自分を 低く見積もんな。少しは でかいこと言えよ。

そんぐらいじゃないと勝てないぞ。

新二の母: 健ちゃん。

神谷新二: 低くも高くもない。正確な見積もりだよ。

神谷健一: 夢は? お前の夢は 何だよ?

神谷新二: 夢?

神谷健一: サッカーじゃなくてもいいよ。けどさ やるからには 高い目標。
夢を持ってよ。

[三輪先生: お前みたいに 下半身に 強力なバネがあって 球技が 苦手なタイプは スピード競技で 大成するんだ]

神谷新二: えっ?

三輪先生: スプリントの王者に なれるかもしれねえな]

神谷新二: 速くなる。 もっと。

<速くなりたい>

<もっともっと 速くなって 王者になりたい>

根岸康行: 神谷! 一ノ瀬君!

ちょっと ごめんね。 待ってて。

神谷新二: やべっ。 見つかった。

一ノ瀬連: 誰?

神谷新二: いやあ どうしても お前のことを 連れてきてくれって 言われてたんだ。 陸上部に 入ってほしいんだって。

一ノ瀬連: 俺 帰んぞ。

神谷新二: もう 遅い。

根岸康行: やあ よく来てくれたねー! また 陸上 やってみる気ない?

いや うちの部はね 先輩たちも みんな 気合い入っててね…。

一ノ瀬連: 考えとく。

根岸康行: あっ。 いやいや…。 うち すごいんだよ。 ファイト オー! ファイト オー!

こっちのほうだから。 いやいや…。 いいじゃん 一ノ瀬君。 ねっ?

神谷新二: 根岸。 そんなに 連が欲しいの?

根岸康行: 当たり前だろ!

100メートルで 中学の全国大会 決勝までいった 男だぞ。 そんなヤツが うちの陸上部に 入るだなんて 奇跡だからさ。

神谷新二: でも あいつ その後 すぐ 陸上部 やめたんだよ。 何か 先生とウマが合わないとか 何とか言ってさ。 練習嫌いなんだよ。 努力してもんが 嫌いなものよ あいつは。

根岸康行: でも 才能がある。 短距離は ぶっちゃけ生まれつきの 才能で 決まるもんなんだけどさ 一ノ瀬はね フォームが ほとんど完ぺきなんだよ。 ムダや 無理がないんだよな。 あんなのね 何年 練習したって なかなか身につかないんだから。 もう 夢みたいなもんだよな。

神谷新二: うん。 そうだよな。 夢だよな。

根岸康行: でもな 何年も 真剣に練習すれば もしかして…。 実現する夢さ。

一ノ瀬連: 一ノ瀬 連です。 よろしく お願いします。

根岸康行: よく 一ノ瀬を 引っ張りこんでくれたな。

神谷新二: 何とかね。

鳥沢圭子: 鳥沢 圭子です。 専門は 中長距離で 中学時代 1500メートルでは 区の大会で 入賞しました。

みなさん: おおー! すげえ。

鳥沢圭子: インターハイでは 関東大会を目標としたいです。 よろしく お願いします!

谷口若菜: あっ。あのう…。わたし 谷口 若菜です。ええと…。わたし
すごい タイム 遅いんですけど…。

誰か : 頑張れ!

谷口若菜: でも 走るのが大好きで 中学のころから 短距離やってて でも
ホントに 遅いんですけど…。皆さんに 迷惑 かけるかもしれませ
んが 陸上 好きなので 頑張ります!

三輪先生: 1年! お前らに 言っとく! 部内恋愛は禁止だ! いいか! 部の
中で イチャイチャ すんな。ほれた ほれたは やめろ! ほかの
ヤツらが しらけるからな! 何より 俺が 不愉快だ!

誰か : みっちゃん 早く 結婚しろよ。

三輪先生: ほっといて!

よし! インターハイに向けて
練習開始だ!

みなさん: はい!

三輪先生: ええー。1年の面倒は 2年の守屋 お前に任した。

守屋 : あっ はい。じゃあ まず お前らは ハードル ウオークからだ。
着替えて 準備開始。

みなさん: はい!

根岸康行: いやあ これから 毎日 一緒に 走れると思うと ワクワクするよー。

一ノ瀬連: 俺 体調 イマイチだから 今日 は 帰るわ。

根岸康行: ちよっと…。

神谷新二: えっ!? おい 嘘つけ。初日から サボんなよ。

一ノ瀬連: 何か 熱っぽいわ。シー ユー。

神谷新二: うめえ! うめえだろ?

誰か : よーい。

神谷新二: くそ…。全く 連に追いつけねえ。

根岸康行: 俺より 速いんだから ぜいたく言うなよ。

神谷新二: たった 0コンマ 何秒。されど 0コンマ 何秒。

根岸康行: それが 短距離ってもんよ。

守屋 : 腰 入れて。もっと 腰 入れて。

後輩 : はい!

守屋 : はい 腰 入れて。もっと 速く!

神谷新二: はい!

誰か : はい!

根岸康行: 400メートル リレー。4継の バトン練習だよ。

神谷新二: ヨンケイ?

根岸康行: あっ そっか。新二 陸上 やってなかったから 知らねえもんな。

神谷新二: うん。

根岸康行: あのかな…。400メートルを 四人で バトンを中継していくから
4継。

神谷新二: ふーん。 4継か。

根岸康行: うん。

三輪先生: おーい 1年! 4継 やってみようや!

1年生 : はい!

三輪先生: よーい。

神谷新二:リレーなんて 小学校の運動会 以来ですよ。

守屋 :病みつきになるぞ。

一走。

はい!二走。

はい!三走。

さあ 行こう 四走!

神谷新二:はい!

ほう…。

すっげえ 気持ちいい。

----- 1年 夏休み-----

根岸康行:暑いっ!いやぁ 今日も きつかったよ。

神谷新二:ああ 腹へったー!

根岸康行:腹へった。

神谷新二:たらいで 飯が食えそう。

根岸康行:せめて 井にしるよな。

ハハハ! いや たらいも ありだな。

神谷新二:あっ 連。 どうした?

一ノ瀬連:具合 悪い。

根岸康行:今日 ずっと 調子 悪そうだったもんな。

神谷新二:大丈夫か?

一ノ瀬連:ダメ。

神谷新二:連は 食わないから 体力 つかないんだよ。もっとしっかり食えよ。

根岸康行:たらいとか 井とは 言わないからさ。

一ノ瀬連:俺 あしたから 練習 休むわ。

神谷新二:おい ちょっと 連。そんな簡単に 休むって…。

神谷新二:健ちゃんの ホームページ?

新二の母:そう。健ちゃんね 今日 試合で すっごい活躍したのよ!

神谷新二:へえー。

新二の母:もう 早く 更新したくて。

神谷新二:うん。

新二の母:こうして こうして…。よし! これで 決まりだ! ああー! すてきー! さっ 今すぐ 夕飯にするね。

神谷新二:うん。

よし。

三輪先生:神谷!最近 いつも 一人 残って 練習してんだなあ。

神谷新二:兄貴に いつまでたっても 追いつけないんです。俺には 才能ない ですから 練習するしかないんです。

三輪先生:そっか。でもな コンプレックスってやつは 使い方しだいで すげえ 武器にもなるからな。ハードで 地味な練習に 耐えられるってのは 立派な 才能の一つだ。一ノ瀬にはない 忍耐力。お前は それを持 ってる。

神谷新二:ありがとうございます!

三輪先生:お前は いずれ 100メートルを 10秒台で走る スプリンター になれる。

神谷新二:えっ?

三輪先生: きっと インターハイを狙える 選手になれるさ。

神谷新二: インターハイですか？

三輪先生: おう そうだ。

神谷新二: インターハイ…。

俺 夏休みが終わるまでに 少しでも 速くなってみせます。

神谷新二: はい！あっ 連！

一ノ瀬連: お前 まだ走ってんの？

神谷新二: まっ これは 軽い 散歩みたいなもんだよ。

一ノ瀬連: はあー。

神谷新二: つうか 連さ お前 自転車なんか 乗ってないで 走れよ。それに 練習にも出てこいよ。お前が 言ったんだろ。「走るのって 気持ちいいぞ」って。

一ノ瀬連: じゃあな！ 頑張れよ。

神谷新二: はあー。いいよな。天才君は。よし。

三輪先生: 夏のハードな 練習の成果を 見せてもらおう。今日の タイムトライアルで 継のメンバーを決めるぞ。

よーい。

根岸康行: ああー やっぱり お前には 追いつけねえな。

神谷新二: 俺も 全く 連に 近づけないよ。

根岸康行: でも 守屋さんより 速くなったじゃねえか。進歩してるよ お前は。

守屋 : おお。やるな 神谷。

神谷新二: ひひーん。

----- 1年2学期 -----

神谷新二: 連のヤツ 今日も 練習 サボるつもりかな？

根岸康行: サボっても 速いんだから 困ったヤツだよな。

あー いいよなあ！ 今ごろ 彼女と デートとか しちゃってんじゃないの？ 天才君は。うらやましいよなあ！ \N あーあ。 恋がしてえ。俺も 恋がしてえなあ！

あっ。

神谷新二: どうした？ 大丈夫？

谷口若菜: うん。どうき 治まらなくて。ちょっと 休めば 大丈夫だから。

神谷新二: ホントに？ 新人戦 近いのに。

鳥沢圭子: 女子に 近づかない 近づかない！ しっ しっ！

大丈夫？

谷口若菜: うん。

根岸康行: あー。 恋がしてえなあ。恋がしてえ！

神谷新二: バカ お前！ ちげえよ お前！ そ… そんなんじゃねえよ！

行くぞ お前。

根岸康行: ホントかよ？

根岸康行: 連のヤツが 来ねえから バトン練習 まともに できてねえよな。

神谷新二: うん。

根岸康行: もっと 俺らが 連に言わなきゃ ダメだな。

神谷新二: うん。

根岸康行: 守屋さんが 心配してんだ。リレーは 気持ちが バラバラじゃ 絶対勝てない競技なんだって。

神谷新二: そうだよな。

-----東京都高校学校新人陸上競技大会-----

「徐々に 肌寒さを 感じ始めている…」

新二の父: 母さん。今日は 新二 新人戦の 都大会だったよな？

「スポーツの秋 本番と いった感じの お天気です」

根岸康行: やっぱ 格好いいなあ！ 陸上の名門 鷺谷の 仙波。

神谷新二: あの体で 俺らと同じ 1年かよ。

鳥沢圭子: 1年にして 東京のスターとか 言われてるからね。レベルが違うよ。

[仙波君 頑張っ！]

仙波 : お前 100以外にも 4継 走んのか？

神谷新二: ああ。

仙波 : 二走は 一ノ瀬か。 あいつ 中学より 速くなってんのか？

神谷新二: 決まってんじゃない。

[よーい。]

神谷新二: オーバーゾーンだ。

守屋 : 俺が 早く出すぎた。すまん。お前たちの いい走りを ムダにしちまった。申し訳ない。

神谷新二: そんな。 謝らないでください！

根岸康行: 先輩は 悪くないっす！ 俺が もうちょっと 手を伸ばせば 届いたんす！俺のせいです！先輩のスタートは 最高だったっす。 追いつけなかった 俺が…！

守屋 : そんなことねえよ！俺が 焦った。一ノ瀬と 神谷の走り 見て 上げえと思って あんまり 速いから 舞い上がっちゃった。すまん。ホントに 申し訳ない。

鳥沢圭子: 部長だって ベストを尽くそうと思って やったことなんですから そんなふうに 謝る必要なんて ありませんよ！

入江 : そうですよ。元気 出してください。 部長！

守屋 : ホントに 申し訳ない。

神谷新二: ホント やめてください！

ほら 連。お前も 何か言えよ。

一ノ瀬連: 全然 いいっすよ。攻めた結果じゃないっすか。

神谷新二: こんなときに 笑うなよ。

こういうときに そういうの 何か むかつく。リレーっていうのは さ 気持ちが バラバラだと 勝てねえ競技なんだよ。もっと お前が バトン練習に 参加してりゃあ こんなミス なかったかしんねえんだぞ！

一ノ瀬連: 結局 お前 ミス 責めてんじゃない。

神谷新二: 何だと！？

三輪先生: ほら！もう いいだろう！

全員が 全力で戦った 結果なんだ。それで いいじゃねえか。

リレー やってりゃ こういうこともあるさ。試合は 今日だけじゃないんだ。切り替えろ！

学生 : はい。すいませんでした。すいませんでした。すいませんでした。

三輪先生: ミスを恐れて 守りに入るような 選手にだけは 絶対 なるなよ。

今日は もう 帰るぞ。 ほら。 クーリング ダウンしろ。

一ノ瀬連: 練習はするよ。

----- 2年・1学期 -----

根岸康行: ほら 1年。もたもたすんな! 1年生は 俺ら 2年生より 先に行
って 俺ら 上級生のために 準備すんだぞ。

桃内 : はい!

神谷新二: 早くしろよな 後輩の 桃内君。

桃内 : はい! 先輩 ちょっと。

あーっ! 先輩! これ 裏返しになってます!

神谷新二: 着替えは 遅いけど…。

一ノ瀬連: 速えな。

神谷新二: すげえ 1年が 入ってきたな。

根岸康行: かーっ! 俺は お役ご免だな。

神谷新二: ネギ。

根岸康行: 俺は に 専念するよ。4継は ヤツと 守屋さんと お前ら 二人
に任せる。守屋さんも 今年が最後だから 気合い 入ってるな。

----- 東京都高校学校・陸上競技対校選手権大会 -----

三輪先生: 決勝も同じく 一走 桃内 二走 一ノ瀬 三走 守屋 四走 神谷で
いく。 いいな?

みなさん: はい!

守屋 : なあ? 神谷。

神谷新二: はい。

守屋 : さっきの予選 俺を なめてんのか? お前が 思いっきり 出たら
俺が 追いつけないとでも 思ってたのか?

神谷新二: 俺を信じろ! 絶対 追いついてやるから 思いっきり 出る。

神谷新二: はい! 決勝は 思いっきり 出ます。

守屋 : よし。

神谷新二: 調子は 上々?

一ノ瀬連: まあな。

「位置について。

よーい。」

根岸康行: やったぞ 新二! すげえ タイムだ! 関東 行けるぞ!

神谷新二: よっしゃー! 関東だ! 関東 行けるぞ!

桃内 : 関東 行けるぞ! やった! よし!

守屋 : やった! よかった!

根岸康行: あれ? 連は?

桃内 : えっ?

神谷新二: 連!

守屋 : おい。

入江 : バトンゾーンで ビリッて来た。

三輪先生: 診断の結果 一ノ瀬は ハムストリングスの肉離れ。全治 か月。
関東は 無理だ。

一ノ瀬連: そんなに ひどくないです。N間に合わせます。

三輪先生: 出たい気持ちは 分かる。でも ダメだ。医者も言ってたろ。無
理に 間に合わせたら もっと ひどくする。

一ノ瀬連: 今 決めなくても いいじゃないですか。早く 回復するかも しれ
ないですし。

三輪先生: とにかく 4継は メンバー変更で出場する。

根岸。 関東のリレーは お前が走るぞ。 いいな？
根岸康行:は… はい。

神谷新二:マジかよ。あいつ 走ってんぞ。
谷口若菜:一ノ瀬君の 試合に 出たい気持ちも 分かるけど。
桃内 :まあ そりゃ リレーで エースが 走ってくれたら 俺らは バンバンザイっすけどね。
神谷新二:もっと おとなしく ケガ人 やっててくんないと みんなが どうしていいか 分かんないよな。
桃内 :そうっすね。
谷口若菜:でも リレーじゃなくて 100に出るためなんじゃないかな？
三輪先生:何 やってんだ！ 一ノ瀬。勝手なこと するな！俺の指示を守れ！

三輪先生:バカやろう。一ノ瀬 やめろ！
谷口若菜:また やってるんだ。一ノ瀬君が すごいつてのは よく分かるんだけど。
神谷新二:何で あんな練習嫌いのヤツが 今回にかぎって あんな ムキになってんだよ。
桃内 :でも あそこまでやると根岸さんに ちょっと イヤミですよ。何か 根岸さんじゃ 無理って 言ってるみたいで。
一ノ瀬連:先生 大丈夫です。何ともありません。走れます。
三輪先生:俺が 意地悪してるとでも 思ってるのか？
俺が お前を 試合に 出したくないとでも思ってるのか？俺が悔しいのが 分らんのか？
一ノ瀬連:でも ホントに大丈夫なんです。自分の体だから よく分かります。
三輪先生:一ノ瀬 焦るな。お前 まだ 年生になったばかりだ。まだまだチャンスはあるんだ。100メートルは 来年も狙える。今 無理をしたら 来年も なくなるってことが分らんのか？
一ノ瀬連:100は いいです。4 継だけ 走らせてください。リレーだけは 走らせてください。リレーで 守屋さんと 走りたいんです。先輩 走るのが 最後なんです。先生 お願いします。
三輪先生:一ノ瀬。
一ノ瀬連:4 継が 走りたいんです。一人で走るより 面白って そう思えたから。このチーム すげえ いいから。守屋さんのいるチーム 好きだから。
守屋 :先生 すいません！部長として 部員の管理が 行き届いてませんでした。

一ノ瀬連:守屋さん 俺が…。
守屋 :俺が もっと こいつに 言って聞かせないと いけませんでした。俺は 心のどこかで 一ノ瀬と走ることを あきらめきれいでいせんでした。「一ノ瀬と走れば インターハイ 出場の夢も」なんて 思っていました。俺に そんな気持ちが 少しでも あったら 一ノ瀬が あきらめてくれるわけ ないです。自分勝手でした。一ノ瀬に もし何かあったら…。
根岸康行:粗末にすんなよ。神様から もらったもんを 粗末にすんな。お前の 走りは 短距離やってるもんの夢だ。1回だけ お前みたいに 走っ

てみたい。みんな そんなふうにも 夢みてんだ。だから そんなふうにも 粗末にすんなよ。

一ノ瀬連:ほかにも 速いやつは いっぱい いるよ。

神谷新二:違う。連や兄貴は 特別なんだ。でも 俺らだって。俺や 根岸だって… 神様から ちゃんと もらってるんだよ。それなりのもんを。

だろ？

根岸康行:ああ。

神谷新二:だから 走れんだよな。

根岸康行:だな。

守屋 :あとは 俺たちに任せてくれ。桃内 神谷 根岸 俺。 みんなで 目いっぱい 走るから。お前の分も走るから。 なっ？

みなさん:はい！

神谷新二:走るから！

一ノ瀬連:はい！

神谷新二:連。

根岸康行:一ノ瀬君。

桃内 :先輩。

神谷新二:<それなりのものを 神様からもらっている。だから 俺は走れる>
<リレーという競技のことを 俺は まだ 本当に 分かってはいない>

<でも 少し 分かった気がする>

<継は。リレーは 仲間と一緒に走るんだ>

<仲間と一緒になら もっと速く 走れるかもしれない>

『裸足の シンデレラボーイ』

Episode 2 (36:55)

神谷新二: いいぞ 桃内！腕 流れんな！ 返し もっと速く！速く 速く！
そう！ そう！ そうだ！ いいぞ！ いいぞ 桃内！よかったぞ
桃内。えっ？ ちゃんと 腕が振れてきたぞ。

桃内 :ホントっすか！？ 連さん！僕 腕 振れてました？

神谷新二:いやいやいや…。 お前さ。

桃内 :はい。

神谷新二:俺も だてに 1年以上 短距離 走ってきたわけじゃねえんだぞ。

根岸康行:そうだよ お前。

桃内 :そうっすね。

神谷新二:お前の成長ぐらい 分かるんだよ！

桃内 :アハハハ！ ごめんなさい！ ごめんなさい！

神谷新二:この野郎！ この野郎！

桃内 :ちょっと。助けてくださいよ ちょっと。

神谷新二:入江ー！ ファイト！ ナイス ファイトだー！頑張れ！ 行けー！
俺には見えるぞ！お前が タスキを つなぐ姿が！駅伝の タスキだ！頑張れ！ 行けー！

トリ！ 鳥沢！ 頑張れ！行けー！ナイス ファイト！行け 行けー！
春高 ファイト！

守屋 :新チームのことなんだけどさ。

神谷新二:はい。

守屋 :お前に 部長を やってもらいたい。

神谷新二:俺がですか!?

守屋 :年生 全員の意見だ。

神谷新二: いや いやいやいや。俺なんかより 経験も知識も 落ち着きもある
ヤツが たくさん いて なんて そんな 俺なんか 全然 全然…。

守屋 :俺はさ ただ ここを いい場所に したかったんだ。どんな すげ
えヤツでも 力のねえヤツでも 癖のあるヤツでも 堂々と 受け入れて
伸ばしてやれる場所にさ。だから 頼んだぞ 神谷。ここを いい場
所にしてくれ。

神谷新二: はい!

神谷新二: あっ 健ちゃん! 悪いな 急に 呼び出して。

神谷健一: 今日は 休み?

神谷新二: うん。あした 駒沢競技場で試合なんだ。

神谷健一: で こっち来た。

新二。 ちょっと つきあえ。

スパイク 買ってやるよ。

神谷新二: えっ!?

神谷健一: 部長になったんだろ? お祝い。

神谷新二: いいよ そんな。

神谷健一: 遠慮すんな。好きなの 言えよ。いちばん速く 走れるやつ。そうい
うの あんだろ? いいスパイク 履けよ 新二。最高のやつ 履いと
けよ。これなんか 速そうじゃねえか? 速くなりたいんだろ?

[一ノ瀬 :格好いいよな やっぱ あの人の]

神谷新二: スーパースターだからね]

神谷新二: 健ちゃん。

神谷健一: うん?

神谷新二: いつか 見に来てくれる? 俺の試合。

神谷健一: おう。

<いつか 健ちゃんみたいに なれるんだろうか? いつか 健ちゃんの背中
に 追いつくことが できるんだろうか? >

神谷新二: 俺はさ 今 11秒を 切れるかどうかの瀬戸際なんだよな。 切り
てえなあ。10秒台 出してえなあ!

桃内 :それが 神谷さんの…。 いや 神谷部長の目標ですか?

神谷新二: そう! 俺は 400で 関東 行けたらなあ。

根岸康行: いや 行きてー!

神谷新二: 行きてえよなあー!

ほら 連。 お前も 何か言えよ。仙波を抜いてやるとかさ。

一ノ瀬連: お疲れ。

根岸康行: クールだねえ。

神谷新二: いや みんな 頑張ろう! 妥協せずにさ。 自己ベスト 更新!

目指せ 関東大会 進出!

みなさん: 進出!

桃内 :おおー! さすが 部長!

一ノ瀬連: お疲れ。

桃内 :いいこと 言いますね! 一生 ついていきます 僕は。 はい。

神谷新二:ふざけてねえで とつとと着替えろ! この野郎!
 桃内 :何で 何で!? いいじゃないっすか 別に これは。
 ひゃー!

鳥沢圭子:神谷。 ちょっといい?

神谷新二:えっ?

谷口若菜:ごめんね。わざわざ 来てもらって。

神谷新二:ああ いや…。何か 俺に 相談があるって トリが言ってたけど。

谷口若菜:一人で悩んでないで 直接 本人に言いなさいって。

神谷新二:直接 俺に!?

谷口若菜:うん。

神谷新二:えー。あっ…。 あっ 何だろう?

谷口若菜:先生に言われたんだけど…。

神谷新二:先生に? もっ もしかして 部内恋愛 禁止のこと?

谷口若菜:中長距離に 変わらないかって。

神谷新二:えっ?

谷口若菜:長い距離のほうが わたしには いいんじゃないかって 先生が。

神谷新二:あ…。 そうなんだ。

谷口若菜:部長に 相談してからのほうが いいと思って。

神谷新二:ああ…。 うん。 うん。

谷口若菜:わたしって 遅いじゃない。

神谷新二:遅い 速いって 問題じゃ…。

谷口若菜:あるよ。 スプリンターは 生まれつきっていうし わたしの種目じ
 ゃないのは 分かってる。運動能力そのものが ないから わたし。

神谷新二:そんなこと…。

谷口若菜:こんなに 遅いのに。

神谷新二:ねえ? 谷口。

長距離 頑張ってみれば? 短距離じゃなくても 走ることの 喜びは
 一緒だと思うし みっちゃんが薦めるんだったら 間違いないと思うし。

谷口若菜:ありがとう 神谷君。

神谷新二:可能性。自分の能力みたいなのに 幅があるじゃん。最低から 最高
 までの幅。その いちばん上が見えないのって いいよね。ワクワク
 できるからさ。自分にも やれるかもしれない。そういう可能性が
 感じられるのって 何か いいよね。

谷口若菜:可能性…。

神谷新二:あっ。 ほら もう こんな時間だよ。帰ろうか。 ねっ。

谷口若菜:あっ ごめんね。

神谷新二:あっ そうだ。俺と谷口って 帰る方向 一緒だし よかったら 一
 緒に 帰ろっか?

なっ なんちゃって。 ハッハー。

谷口若菜:うん!

神谷新二:うん…。 えっ!?

神谷新二:可能性…。

ほら みんな! もっと 元気 出して! 元気!

おい 桃内! 声を出せ 声を!

桃内 :はい。春高 ファイト! 声 出していきましょう! 声 出して!

みなさん:はい!

神谷新二: よし! もう1本 行くぞ!
根岸康行: 何か 新二のヤツ 気合い 入ってんな。

神谷新二: 谷口。長距離の練習 厳しそうだけど 大丈夫?
谷口若菜: 結構 楽しんで やってる。走るの 好きだし。
わたし うさぎには なれないけど 足の速い カメになる。
どうかした?
神谷新二: あっ いや。いいこと言うなあと思って。足の速い カメか。うん。
いいよ それ。
俺 見てるから。谷口の走り。
あっ。ちょっと ごめん。
あっ 母さんからだ。
へえー。健ちゃん 帰ってた。
谷口若菜: 健ちゃんって お兄さん?
神谷新二: そう。我が家の スーパースター。たまーにしか帰ってこないけど
ね。今日は 家族 みんなで 焼き肉だっけさ。
谷口若菜: へえー。いいなあ。お兄さん 会ってみたいな。
神谷新二: ああ。よかったら 谷口も来る?
え…。なんちゃって。ハハハ!
谷口若菜: 行っていいの?
神谷新二: えっ!? あっ 痛えー!
新二の母: 健ちゃんが 出てきてからは もうあつという間よ。ドリブルして
フォワードにパス。そして あつという間に ゴール!
あっ 谷口さん。お肉 焼けたわよ。
谷口若菜: あっ ありがとうございます。
神谷新二: ナイス パス! ナイス アシスト! やるね 健ちゃん。
神谷健一: お前だっけ やるじゃねえか。
神谷新二: 違うよ! 健ちゃんに 会いたいわって。
神谷健一: そう。
新二の母: どう? 格好いいでしょう? うちの健ちゃん。
谷口若菜: はい。
新二の父: 健一だけじゃなくて 新二も 格好いいでしょ?
神谷新二: ちょっと 父さん。
谷口若菜: はい。頼れる 部長さんです。
神谷健一: フフフ…。頼れる 部長さん? お前 よかったな!
神谷新二: ほら 母さん! 肉 焦げてるよ。早く!
谷口若菜: 神谷君って ホントに お兄さんのこと 大好きなんだね。
神谷新二: うん。大好きだよ。
大好きなんだけどさ すごすぎて 届かなくて…。苦しいんだよね。
同じ男として。
谷口若菜: 神谷君のほうが すごいと思う。
神谷新二: えっ?
谷口若菜: だって あんな 大きな才能 持ってる人に 届こうとしてる。いつ
も 前を向いて 上を見て 一生懸命 やってる。それって 格好い
いと思う。
神谷新二: あっ…。ありがとう。

-----新人戦 関東大会-----

「今朝は 秋とは 思えないような
 ぽかぽかした日ざしが さしています。
 今日はお出かけの際は 傘は 必要ありません…」
 桃内 :はい！
 「皆さん 元気に 行ってらっしゃい！」
 桃内 :ああ やべえ！ もう こんな時間！
 神谷新二: よし。
 新二の母: 新ちゃん！ 頑張って！
 新二の父: 新二！ 春高 ファイト！

よーい。

神谷新二: ええっ！？ 嘘！ 1位！？
 根岸康行: 新二！ やったな！ 新二！ 1位だ！ 見ろ！ 見ろ 見ろ！
 桃内 :やったー！ 連さん！
 神谷新二: 連！ やったな！ やったな！
 神谷新二: 母さん！ 健ちゃんのお守りの お陰かも！
 新二の母: 新ちゃん。健ちゃんが…。
 神谷新二: 健ちゃんが どうしたの？
 新二の父: 事故に遭った。
 新二の母: 救急車で 運ばれたって。
 新二の父: えっ？ 人込みみ中で…。 エスカレーターで 転落したらしい。 とに
 かく 先 行ってるから。
 ほら。

 新二の父: あっ 新二。 新二。 試合は どうだった？
 神谷新二: そんなことより 健ちゃんは何？
 新二の父: うん。 命に別状はない。 その心配はない。 頭 打ってるけど 問題
 はないそうだ。 ただ 脚が。
 神谷新二: 脚？
 新二の父: 後ろから 倒れてきた人たちの 下敷きになって 右ひざのじん帯と
 半月板が 損傷してるっていうんだ。
 神谷新二: サッカー。 サッカーは どうなっちゃうんだよ！？
 新二の母: 大丈夫よ。 健ちゃんなら 大丈夫よ。
 あっ。 健ちゃん。
 神谷新二: 健ちゃん。
 神谷健一: 新二。
 神谷新二: 健ちゃん。
 神谷健一: 何してんの？
 神谷新二: えっ？
 神谷健一: そんな チームジャージ 着て 何してんだよ？
 神谷新二: あっ。 いや。 今日 試合で…。
 神谷健一: そんな格好で 病院 来んなよ！ そんな チームジャージなんか
 着て 病院 来んな。 帰れよ！
 新二の母: 健ちゃん。
 新二の父: 健一。
 神谷健一: 帰ってくれよ！ 帰れよ。

神谷新二: 健ちゃん 治るんでしょ?

新二の父: それは これからだ。いろいろ。いろいろ やらないと 手術が必要で リハビリを含めて 年以上は かかるそうだ。 走れるようになるかどうか 今の段階では 分からないって

神谷新二: そんな!?

「そんな格好で 来んなよ! そんな チームジャージーなんか 着て 病院 来んな。 帰れよ!」

三輪先生: そうか。何とか 治るといいな。 そんな顔すんな。 当人が いちばん つれえんだから。 周りのヤツが あんまり へこんだら ダメだぞ。 信じてやれ。 治るってこと。 誰よりも いちばん お前が 信じてやれ。 元気づけてやれ。 無理にでもやれ。 お前が やるんだぞ。

神谷新二: はい。

三輪先生: しばらく 部活を休みたいっていう お前の気持ちは 分かった。 でもな なるべく早く 復帰しろ。

新二の父: 新二。 帰ってんのか?

新二。 帰ってるなら 電話ぐらい 出ろよ。 心配するだろ。 弁当 買ってきた。 食おう。

神谷新二: いらない。

新二の父: 食わなきゃ ダメだよ。

リレー すごかったな。 お前が あんなふう走るなんて 父さん 知らなかったよ。 すごい迫力でさ。 俺も母さんも 興奮しちゃってつい叫んじゃった。

神谷新二: もう やめろよ!

新二の父: 健一は 気が動転してたんだ。 いきなり 帰れて どなられて ショックだったろうけど 許してやってくれ。

神谷新二: どうでもいい。 どうでもいいよ。 そんなこと。 健ちゃんが また サッカー できるようにさえなれば。

一ノ瀬連: どうしてっかなって思って。

神谷新二: うん。

一ノ瀬連: みっちゃんも 心配だから 1回 見てこいってさ。

神谷新二: そう。

一ノ瀬連: 健ちゃんは どう?

神谷新二: だいぶ 元気になったって。

一ノ瀬連: 脚のほうは?

神谷新二: 手術して リハビリすれば 復帰できる可能性も なくはないって。 だいぶ 時間かかるらしいけど。

一ノ瀬連: 新二は どうよ?

神谷新二: うん?

一ノ瀬連: まだ 走る気には ならない?

神谷新二: 夢を見るんだ。 100メートルのレース。 連や仙波がいて その先に 健ちゃんがいるんだ。 俺は すごく調子がよくて 最高の加速が できて 抜けると分かった。 今まで 一度も抜いたことのない 相手なのに。 そして 抜いた。 その瞬間…。 ひざが 壊れるんだ。 俺 走れねえよ。

神谷新二: あっ 谷口。

谷口若菜: お願いがあつて 来たの。

神谷新二: お願い？

谷口若菜: 神谷君が 大変なときって いうのは 知ってるけど。すごく 迷ったけど やっぱり 言いに来た。あしたの駅伝 見に来てほしいの。

神谷新二: あっ。 駅伝。

谷口若菜: 部長だからとか 部のためとかじゃなくて わたしの わがままで ただ 来てほしいって思って。神谷君には すごく 力もらったから。

神谷新二: そんなこと…。

谷口若菜: 可能性って 言ってくれたよね。わたしに。長距離の練習が どんなに きつくても 神谷君の その言葉を思い出して 頑張れるんだ。見てほしいの。わたしたちの レース。あした 朝 時半 出発。わたし 頑張るから。みんな 待ってるから。

[あした 朝 時半 出発]

神谷新二: もしもし。

神谷健一: おう。俺。

神谷新二: うん。

神谷健一: この前 悪かったな。何か わけ 分かんなくなつてて。お前に 八つ当たりしても しょうがないのに。

神谷新二: 全然。俺は 全然。

神谷健一: 部活 行ってないんだって？

あ…。 何でだよ？ 部活 頑張れよ。

神谷新二: どうしてなんだ？ 健ちゃんの足は この世に 二つとないかけがえのないものなのに。

神谷健一: 新二。

神谷新二: 俺が 事故に遭えば よかったんだ。

神谷健一: えっ？

神谷新二: 何で 健ちゃんなんだよ。俺なら よかったんだ。

神谷健一: バカなこと言うな。

神谷新二: 俺なら よかったんだ！ 健ちゃんだって そう思うだろ？

神谷健一: 黙れ。俺 お前に 何 言ったか 覚えてないけど。ひどいこと 言ったのかもしれないけど。そんなつもり ないから。

今日は もう寝ろ。

[谷口若菜: みんな 待ってるから]

[健ちゃん: やるからには 高い目標。夢を持てよ]

[健ちゃん 待って！]

健ちゃん 待ってよ！ 健ちゃん 待って！]

新二の母: 新ちゃん？

神谷新二: ちょっと 行ってくる！

....

神谷新二: トリ！ 鳥沢！ ファイト！ 春高 ファイト！ 鳥沢 ファイト！

入江 ファイト！ 入江！ 最後まで あきらめんな！

入江 : うん。

神谷新二: 入江 頑張れ！ タスキだ！ 春高のタスキを 頼んだぞ！ よし。

ファイト！みんな 頑張れ！ 頑張って！

谷口。谷口 ファイト！頑張れ 谷口！ 頑張れー！ 頑張れ！\N 頑張れ 谷口！

頑張れ！ 頑張れ！ 頑張れ！

みんな 頑張れ。

頑張ってくれ。頑張って。頑張って。 頑張って。

一ノ瀬連: 部長が チームジャージ 着ねえで どうするんだ？

神谷新二: レース どうだった？

一ノ瀬連: 自分で確かめろ。

テントに 行こうぜ。みんな 待ってる。

つまんねえよ。お前が いねえと。俺さ お前と かけっこしたくて この部に 入ったんだからよ。

神谷新二: かけっこ。

俺 ずっと 泣けなくて。俺なんかより 健ちゃんのほうが ずっと 苦しいんだからって ずっと こらえてて。

さっき 涙腺 壊れた。みんなが 懸命に走る姿 見て 何か 胸が 熱くなった。健ちゃんのこと ずっと 応援してきた 自分と みんなのこと 応援してる 自分とが重なって 健ちゃんの背中が みんなの 背中と 重なって。何か わけ 分かんなくなって。でも 必死で 応援してる 自分がいて。それで やっぱり 俺も走りたいて 思 っ っ っ。本当は 走りたいて 気づいて。

鳥沢圭子: 走ればいいじゃん！

神谷新二: えっ？

根岸康行: 走りたいたったら 走ればいい。

谷口若菜: 遅いとか 速いとか 関係ない。走りたかったら 走ればいいって 神谷君 言ってくれたよね？

根岸康行: でも 新二は それだけじゃ ダメだ。部員の面倒も 見なくちゃな。 部長なんだからさ。

桃内 : そうっすよ。自分勝手な行動は 許されないんすよ 部長さんは。

鳥沢圭子: そうだよ。いるときには 気づかなかったけど さっき 応援してく れてる姿 見て 気づいた。いつも あんたに すごく 元気づけ られてるんだって。

入江 : 俺も さっき めちゃくちゃ エネルギー もらった。

谷口若菜: わたしも 神谷君の応援で 勇気が出た。最後まで 走れた。だから 戻ってきてほしい。

桃内 : そうですよ。戻ってきてくださいよ！

鳥沢圭子: ほら。走らない あんたは 格好悪いよ！

根岸康行: 新二。

谷口若菜: 神谷君。

根岸康行: 新二。

一ノ瀬連: 走るのって 気持ちいいよな。速く 走れるって 最高に 気持ちよ くねえ？

神谷新二: 最高だ。

一ノ瀬連: ほら 新二。

<さっき 頑張れって 仲間を 素直に応援してた>

根岸康行: よっしゃ！じゃあ みんな 行くか？ よし！

<頑張れ 健ちゃん>

<俺も 頑張るから>
『裸足の シンデレラボーイ』

Episode 3 (36:55)

----- 2年・冬休み -----

三輪先生: 兄貴の具合は どうだ?
神谷新二: 松葉づえで 歩けるようには なってました。でも 完全に治っても 前と同じように プレーできるかどうかは 分からないって。
三輪先生: あれだけの事故と ケガだからな。ましてや プロ選手だし。N いずれにしても お前が頑張ってるところを 見せればいいんじゃないのか? それが いちばんの励ましに なると思うぞ。
神谷新二: ですよ。俺 頑張ります! だから みっちゃん 今以上に厳しい指導 よろしく お願いします!
三輪先生: よいしょ。何だか分かるか?
神谷新二: バトンですよ?
三輪先生: そう。 春高のリレメンが ずっと昔から 練習で使い続けてきた バトンだ。
神谷新二: 先生も 使ってたんですか?
三輪先生: ああ。 俺らも その下も また その下も ずっとな。
神谷新二: 俺たちには 使わせてもらってません。
三輪先生: 今どきのヤツらには ダセェって 笑われるっかなあ。もういいかなあ。封印しようと思った。でもなあ お前の熱い目を見てたら 渡したくなかったよ。俺には 俺の夢があったが お前らには お前らの夢がある。自分で 夢をみろ。でっかい夢を みてみる。
神谷新二: はい!
《俺の夢は シンプルだ。 目指すところは ただ一つ》

一ノ瀬連: 何で 砂浜で練習なんだよ。
桃内 : ここで 3000メートル 走るなんて ムチャっすよ。つうか 誰っすか? あの熱血野郎。
神谷新二: みっちゃんの 10個後輩 俺たちの 10個先輩 河野さんだよ。
根岸康行: 名物 熱血OBだよ。
一ノ瀬連: みっちゃんの差し金か?
神谷新二: 俺が お願いしたの。
桃内 : えーっ! もう 勘弁してくださいよ。
河野 : ほらっ 始めるぞ!
神谷新二: はい!
根岸康行: はい。
河野 : いいか これから やるのは これまで お前たちが やってきた 200メートルを 本 ダッシュするような 練習とは 違う。
神谷新二: 常に 全力で走る ってことですよ?
根岸康行: 聞いたことがあります。 最初は 30メートルから始めて 徐々に 距離を 延ばしていくんだって。
神谷新二: 全力疾走ができる距離を 増やしていくってことだよな。
一ノ瀬連: でもって 最終的に 3000メートルを走りきる。
桃内 : うわあ めっちゃ キツそうっすね。

河野 :キツさに絶えりゃ いいってもんじゃない。基礎体力づくりが 目的じゃなくて ショートスプリントの動きづくり。そのための反復練習だ。

桃内 :何か ドSな練習 どえすね。

一ノ瀬連:3000メートルって バタバタになんねえで どれぐらいまで 走れんだ？

神谷新二:最後まで。1本1本 走るだけだ。全力で。

河野 :スタートから 30の 短い足慣らし。スプリントから いくぞ！

1300！

神谷！ 足が流れてるぞ。はい！

2100！体 抑えろ！ しっかり踏み込め！

神谷新二:ウーアッ！

河野 :ラスト 40！正しい フォームで走れ！ フォームを保て！

<俺の夢は シンプルだ。目指すところは ただ一つ。速くなる。バトンを受け取った。自分の でっかい夢につながる バトンを受け取った>

神谷新二&根岸康行:いただきます！

桃内 :ありがとうございます！

河野 :この練習を やっとけばな 試合で ホントに キツくなったとき いいフォームで走れるんだよ。

一ノ瀬連:100の試合で 80、90メートルの 正念場に来たときに ちゃんとしたフォームが 保てるってことっすよね？

神谷新二:つまり 勝てるってことだよ。

河野 :お前ら見てると 俺も 昔を思い出すよ。

神谷新二:河野さんも 走ってたんですよね？4継。

河野 :ああ。俺も みっちゃんも みんな 4継 経験者だ。

桃内 :えっ どこまで 行けたんすか？

河野 :俺らは あっけなく 地区予選 敗退だよ。なんつったって オリンピック候補が ゴロゴロいた代だかな。

桃内 :ああ…。 すいません 余計なことを 聞いてしまいました。

アッ アハハッ！\Nあざーっす。

河野 :おっ けど みっちゃんは 違うぞ。

一ノ瀬連:もっと いいどこまで 行けたんすか？

河野 :あの代の継は 速かったらしいぞ。春高史上初 インターハイを狙ってた。

桃内 :すげー！ みっちゃん そんなこと ひと言も自慢したこと ないっすよ！

河野 :自慢できない結果に なっちまったかな。

神谷新二:えっ ダメだったんですか？

河野 :みっちゃんのところまで バトンのミスがあつてな。

桃内&根岸康行:えっ？

神谷新二:えっ バトンミス？

河野 :みっちゃんと 次の走者の間で バトンが うまく渡らなかつたらしい。まっ そんなことは リレーやったりゃ 珍しくもないけどな。本人にとっては 人生最大のミスって思うぐらい へこんだんじゃないかな。 ふだんは のほほ〜んとして見える みっちゃんだけどころか いろんな忘れ物 してるのかもしれないな 陸上に。

まっ 武士の情けだ。
このことは 聞かなかったことにしといてくれ。

神谷新二: はい。

桃内 : えっ 何ですか? イテッ!

根岸康行: あれが 鷺谷の大塚先生だよ。

桃内 : すげー 怖そうっすね。

根岸康行: 高校陸上界のドンだからな。

桃内 : でも よく うちとの 合同練習 受けてくれましたよね。

根岸康行: それだけ うちの 4 継が 最大の ライバルってことだろ。

桃内 : マジっすか? マジっすか?

神谷新二: 違うよ。 みっちゃんが 頼み込んだだけだよ。

桃内 : あっ マジっすか?

三輪先生: では 短距離 合同練習 よろしく お願いします。

神谷新二, 根岸康行, & 桃内: お願いします!

神谷新二: あー おなか すいた。

大塚先生: おい お前。 お前だ。

神谷新二: あっ 俺ですか?

大塚先生: お前は レースの組み立てを 考えてから 走ってるのか?

神谷新二: 組み立てですか?

大塚先生: 随分 トップが出てるのに 最後の 30メートルで やけに 失速するじゃないか。

神谷新二: はあ。

大塚先生: 絶対スピードが上がってるんだ。 どうして それに気が付かない? お前は 相当 速くなってるはずだ。 去年より いや 恐らく 先月よりもな。なのに お前は 何も考えずに ただ バカな走りをしてる。三輪!

三輪先生: はい。

大塚先生: お前 監督だろ。何を教えてんだ?

三輪先生: レース展開ですね? これから教えます。今まで そんなレベルじゃなかったんですよ。

お前 今 すごい勢いで 伸びてんだ。一つ 走るごとに 理論や技術じゃ 伝えられないことを吸収して成長していった。

神谷新二: はあ…。

三輪先生: 今年は 継で 鷺谷に勝ちますよ。 インターハイの決勝で 勝負しましょう。

神谷新二: 勝負します。

大塚先生: 意気込みだけは 買ってやる。

根岸康行: えっ! 大塚先生が みっちゃんの先生?

河野 : おう。

神谷新二: ってことは 不良だった みっちゃんに 陸上の面白さを 教えた人?

河野 : よく知ってたな。

一ノ瀬連: 熱血キャラの ルーツは あの 大塚ってことか。

河野 : あの練習バトン 作ったのも 大塚さんだよ。あの 消えかかった文字 あの人が書いたんだってよ。

神谷新二: そうだったんですか。

河野 : ああ。

桃内 : いたー！もう ひどいじゃないっすか 俺のこと もう 仲間外れにして！

あっ！ うまそう！ 俺も ラーメン…。

神谷新二: 桃内 桃内。

桃内 : えっ？

神谷新二: あの 大事なバトンお前 ちゃんと管理 してんだろな？

桃内 : もう もう。 大丈夫ですって。僕が 大事にちゃんと 保管してま
すから。

神谷新二: よし。 なら いい。絶対 無くすなよ。

桃内 : はい。 ラーメンください。

----- 3年・1学期 -----

桃内 : すげえ 速いっすね。 あいつ ホントに この間まで 中学生だっ
たんすかね。

根岸康行: 新二と 連と 桃内 それと あいつ。 鍵山が入ったら うちの4継は
大変なことになんぞ！

神谷新二: 何 言うんだよ ネギ。俺と 連と 桃内と ネギ お前の四人だろ。

桃内 : そうっすよ。

根岸康行: まあ ここまでの つなぎとしてはな。でも これからは あいつだ。

神谷新二: 最初から 譲るようなこと言うなよ。リレーは チームワークなんだ
から やってみねえと分かんねえだろ。

根岸康行: 新二は 走るたんびに 速くなるけど 俺は もう 限界だよ。

桃内 : 根岸さん…。

根岸康行: 鍵山！ 鷲谷に行かないで 正解だったなあ。あっちだったら 補欠
だったろうけど うちだったら 1年から レギュラーで 試合に出
れる。

神谷新二: 何だ あいつ？

鳥沢圭子: 大丈夫？

谷口若菜: うん。

鳥沢圭子: よっ せーの。鍵山君 手伝って。

鍵山義人: 急ぎますんで。

鳥沢圭子: ちょっと待ちなさいよ！ あんた 1年生なんだからね！

谷口若菜: やめときなって 圭子。

鳥沢圭子: ったく！

三輪先生: 長距離 女子 鳥沢 お前が ぐんぐん引っ張っていけ。

鳥沢圭子: 任せてよ みっちゃん。

三輪先生: うん。

最後に 男子の4継は 一走 鍵山。 二走 一ノ瀬。

一ノ瀬連: はい。

三輪先生: 三走 桃内。

桃内 : はい。

三輪先生: アンカー 神谷の オーダーでいく。

神谷新二: はい。

三輪先生: 新メンバーが入ったんだから バトン練習に 力を入れるように。

神谷新二, 一ノ瀬, & 桃内: はい。

三輪先生: さあ いよいよ インターハイだ。 全種目で 都大会に行くぞ!
気合い入れていけ!

学生 : はい。

鍵山義人: あの すいません。

神谷新二: ん?

鍵山義人: 俺 リレー 走りたくありません。

神谷新二: はっ?

鍵山義人: リレー 好きじゃないんで。

神谷新二: フンッ 好きじゃないって…。

鍵山義人: リレーメンバーからは 外してください。

神谷新二: 何 言ってるんだよ。あのな 短距離選手は 100だけじゃなくて リレー 走るのも 当たり前なんだぞ。それに 4 継に選ばれたってことは 速いって認められたこと…。

鍵山義人: リレーは 走りません! 先生に そう伝えてください。

鳥沢圭子: 鍵山みたいな生意気なヤツ 見たことない。先輩に対する礼儀 まるで なし。

桃内 : もう あいつ クビに しちゃいましょうかね。クビ クビ。

根岸康行: 待ってくれ。礼儀については 俺が よく言って 聞かせるから。

神谷新二: でも 4 継は ヤバいな。気持ちが バラバラだと リレーは 絶対に勝てない。

鳥沢圭子: 駅伝でも そう。気持ちが 一つになるのが大事だよ。本当に苦しいところで どこまで 踏ん張れるかが 違ってくる。短距離だって そういう プラス アルファは あるでしょ?

神谷新二: 4 継は プラス アルファの塊だからな。四人で いいレースが できたときはさ うれしさが ただの倍じゃないんだ。16倍 64倍って 無限大なんだよな。

桃内 : だったら こう なおさら チームワーク乱すヤツは 排除したほうが よくないっすか?

根岸康行: いや 違う。スプリントは 残酷だよ。人格なんて 関係ない。速いヤツの代わりは 誰も できない。

なっ だから 鍵山の件に関しては 俺に 任してくれ。俺が ちゃんと教育するからさ。

なっ? 部長さん。

神谷新二: うん。

鳥沢圭子: そうだね。あいつも 入部したてで なじんでないだけかも しんないし。

一ノ瀬連: まあ みっちゃんが決めた オーダーだしな。

神谷新二: よし 分かった。お前が ダメだった場合は 俺も もう一度 話してみるから。頼んだぞ ネギ。

根岸康行: 了解!

根岸康行: いいか 鍵山 はっきり言うぞ。今のお前の タイムじゃ 100で 全国は無理だ。でもな リレーなら 4 継なら 可能性はある。お前が 完全に フィットすれば あの鷺谷にだって 勝てるかもしれない。そうなれば インターハイだ!

1年のうちから 全国の雰囲気 を 味わっておけば お前の将来にだっ
て プラスになる。そうだろ？だから ちゃんと 4継も走れ。分か
ったな？

鍵山義人: はい。

鳥沢圭子: やる気になったんだね。頑張れよ。

根岸康行: 春高の継 インターハイへの第一歩ってとこだ。しっかり やれよ
鍵山。

神谷新二: 100には 100の 4継には 継の よさがあるってこと お前も
すぐに分かるよ。

鍵山義人: はい。

桃内 :じゃあ 早速 バトン練習のほう いっちゃいますか？

神谷新二: おう。 位置に着いてくれ。

じゃ 頼んだぞ 鍵山。

入江 :頑張れよ。

鍵山義人: はい。

入江 : 位置に着いて！よーい はい！

桃内 :おい どうした？ 鍵山。

神谷新二: 鍵山 ビルドアップしろ。

鍵山義人: はい。

入江 :位置に着いて！よーい はい！

神谷新二: 鍵山！

根岸康行: 鍵山！

神谷新二: どうした 鍵山！

鍵山義人: 痛え！

神谷新二: 大丈夫か？

鍵山義人: 痛え！ 痛えー！

神谷新二: 大丈夫か？ どうした？ もも？ ももか？

三輪先生: 鍵山は やっぱり ハムストリングスの肉離れた。でも 幸いなこと
に 去年の 一ノ瀬よりは 症状は軽い。でもなあ 支部予選は 無
理だな。

根岸康行: 都大会には 間に合いそうなんですか？

三輪先生: 経過を じっくり見なきゃならんが 恐らく 大丈夫だろう。

神谷新二: よかった。

三輪先生: 支部予選の 4継は お前が走れ 根岸。

根岸康行: はい。 鍵山のためにも 頑張ります。

三輪先生: うん。

桃内 : 部長 大変です！

神谷新二: どうした？

桃内 : 来てください！ 早く！

神谷新二: 鍵山！ 鍵山 落ち着けて！ 鍵山！

鍵山義人: あんたらのせいだ！ リレーなんか やらせるからだ！

根岸康行: 落ち着けて！

鍵山義人: どうしてくれんだよ！ 走れなくなっちゃったんだぞ！

一ノ瀬連: 俺も お前と同じ 経験済みだ！ 悔しい気持ちは よく分かる。

でも お前には まだ 先がある！ 焦んな！

鳥沢圭子: ケガは治るんだから。

根岸康行:俺が お前を上の大会に 連れてってやる! だから 少しの間 辛抱してくれ!

鍵山義人:俺は リレーなんか 走りたくなかったのに! チクショー! アーッ!

三輪先生:うーん。 根岸は 一ノ瀬の スピードに ついていけないなあ。

神谷新二:はい。 でも みっちゃん。正直 言って 鍵山より 根岸が入ってる今のチームのほうが 雰囲気は 最高なんだ。

三輪先生:そうか。 鍵山が 練習に出てこない以上 最後まで 根岸で いくことも 考えといたほうが いいかもしれんな。

神谷新二:ですね。

三輪先生:根岸でも 十分 全国に行く チャンスはあると 俺は 考えてる。

神谷新二:僕も そう思います。

三輪先生:何かあったら すぐに報告してくれ。

神谷新二:分かりました。

桃内 :先輩。 リレー練習 始めるんで バトン 取りに来ました。

神谷新二:おう。 任した。

桃内 :ういっす。

谷口若菜:鍵山君 全然 練習 来ないね。

神谷新二:うん。 ケガしてても 部員なんだから 顔 出せって 何度も 言ってんだけどさ。

谷口若菜:そっか。 でも あんなふうに 暴れちゃったから 来にくださいかもしんないよね。

神谷新二:谷口って 優しいよな。

谷口若菜:えっ?

神谷新二:えっ…。

ああ… いや 俺も 部長なんだからさ 俺も ほら 谷口みたいに 広い心で 後輩の面倒 見なきゃなって そう思って。

谷口若菜:あ… わたしなんか 神谷君に比べたら 全然。神谷君は 頑張ってると思う。 部長としても 選手としても。

神谷新二:そうかな?

谷口若菜:あっ わたし 今日 夕飯作る 当番だったんだ。ごめん 急ぐから。 また あしたね。 バイバイ。

神谷新二:バイバイ。

俺って 頑張ってるのかなあ。

根岸康行:うん。 頑張ってるよね 新二君。アハハハ…。

神谷新二:そ… そんなんじゃねえよ。そんなんじゃねえよ。

一ノ瀬連:部内恋愛禁止だったよなー!

神谷新二:だから そんなんじゃねえって。

根岸康行:罰金徴収。俺らに ラーメン おごってくれたら 黙っててやるよ。

神谷新二:バカ 絶対やだ。

一ノ瀬 & 根岸康行:じゃあ 行こうか。

神谷新二:絶対やだ。

河野 :そりゃ 痛いですね。 鍵山が 継から抜けるのは。

三輪先生:正直な。

河野 : 全く 顔も 出さなくなったってことは 陸上部 辞めちゃう可能性も あるってことですかね？

三輪先生: かもしれねえな。もったいねえよなあ。

河野 : ケガぐらいで あきらめるなんてですか？

三輪先生: フッ。 他人事とは 思えなくてな。 鍵山は たぶん4継コンプレックスなんだ。

河野 : みたいですね。中学時代 あんなに 100が速かったのに 4継には 出てませんからね。

三輪先生: いや 1回だけ 出たことあるんだ。まだ 1年生のときに。

根岸康行: 1年のとき 1回だけ 走ったらしいけど バトン ミスって 失格 になったらしいよ。

神谷新二: バトンミスで 失格か。

根岸康行: うん。

神谷新二: あっ だから あんなに 継やるの 嫌がってたんだ。

根岸康行: まあ それ以来 苦手意識でも あるんじゃないか。

一ノ瀬連: けど 中学年で バトンが うまいも 下手もないだろう。 中じゃ バトンミスなんか 当たり前だかな。

神谷新二: うん。

根岸康行: ところが あの性格だろ？ まあ 苦手なもんは 避けたいだろうな。 練習して 克服する気になるところか ミスったのを チームメートの せいにして 仲間から 総スカンされたいらしい。

神谷新二: なるほどね。

三輪先生: ミスを 他人のせいにする バカもいれば 自分一人の責任だって 背負い込むバカもいるってことだ。

河野 : そのバカは 責任を 背負い込んだんじゃないかって バトンの重みを 背負い込んだんじゃないですかね。僕は そう思ってますよ。

根岸康行: バトンは 練習すれば うまくなる。

一ノ瀬連: もういいじゃねえか。4継は ネギが 走るようになったんだから。

根岸康行: 支部予選は 俺が走るよ。でも それ以上の大会は 鍵山でいく。そうしてくれ 新二。

何たって あいつは 俺より 0.3秒以上 速いんだ。うちの4継が 鷲谷に勝つには あいつが 必要なんだよ。

[神谷新二: たった 0コンマ 何秒。されど 0コンマ 何秒

根岸康行: それが 短距離ってもんよ]

根岸康行: そうだろ？

神谷新二: 桃内 何やってんだ？

桃内 : あっ ないんです バトンが！

神谷新二: バトンがない！？ おい 嘘だろ！お前が 管理したんじゃないのか？

桃内 : してます ちゃんと！ 昨日も 練習 終わって ちゃんと 部室に置いて 帰りました！

一ノ瀬連: 持って 帰ったんじゃないのか？

桃内 : いいえ！ っていうか 絶対 この中に ちゃんと入れて 帰ったんです！

神谷新二: ああ 俺も見た。昨日は 確かに そこに あった。

根岸康行: どうすんだ?

桃内 : 代々 受け継がれてきた 春高の歴史ですよ。だから 俺も ちゃんと 大事に保管してたのに。

三輪先生: そうか。バトンが なくなったか。

一ノ瀬連& 神谷新二: すいませんでした。

三輪先生: ハハッ 大げさだな おい。

神谷新二: えっ? でも…。

三輪先生: まあ あれなら 単なる おまじないみたいな もんなんだよ。それに 試合じゃ あんなバトン もう 使わないんだし なくなって よかったんじゃないか?

一ノ瀬連: けど あのバトンは…。

三輪先生: おい 何だよ 一ノ瀬まで そんな しんきくさい顔して。ほら とっとと 練習 出ろ。

神谷も お前 部長が遅れちゃ まずいだろ。ほら いけ。へっ。

神谷新二: はい。分かりました。ホント すいませんでした。

三輪先生: ああ。ほらほら 行け行け。ほい。ほい。ほい。

鍵山義人: もしもし。

三輪先生: 鍵山か。三輪だ。

鍵山義人: あっ。

三輪先生: 随分 にぎやかなところに いるんだな。ゲーセンか?

鍵山義人: 日曜ですから。

三輪先生: 日曜でも 練習あるんだぞ。

鍵山義人: 俺 辞めます。

三輪先生: そうか。辞めたいなら 辞めろ。でもな きちんと みんなの前で あいさつしてからにしろ。でもな きちんと みんなの前で あいさつしてからにしろ。ちゃんと みんなの前で 「辞めます」って あいさつしろ。

神谷新二: 何も 辞めること ないじゃないか。なあ 鍵山。

俺も しっかりしなくて 部に 迷惑をかけたことがある。つらくて 気持ちの整理が つかなくて 分かっても できないこともあるんだ。

[鳥沢圭子: 走らない あんたは 格好悪いよ]

根岸康行: 新二

谷口若菜: 神谷君…

一ノ瀬連: 走るのって 気持ちいいよな\

神谷新二: 最高だ…]

でもな やっぱり 仲間と 一緒にいるのが いちばん大切なことなんだ。ケガが治るまでは みんなのこと 応援してれば それも 必ず身になる。

鍵山義人: 人が走ってるとこ 見たくありません。

神谷新二: どうして? \

鍵山義人: 悔しいから。

鳥沢圭子: あんた 強くなれないよ。部活ってのはさ ほとんどのときに悔しいんだよ。試合に負けたり 練習が うまくいかなかったり 人が 自分

より強くなったり ケガしたり。でもさ その悔しさを バネにするから 意味があるんじゃない？

神谷新二: そうだよ。N悔しさを エネルギーにすれば もっと 強い選手になるぞ。悔しさを 大切にしろ。もっと 悔しい思いしてみろよ！

鍵山義人: もう 十分に悔しいので これ以上 悔しくならなくて いいです。

谷口若菜: 何か 悲しいな そういうの。

三輪先生: バトンミスは 何も お前の 専売特許じゃねんだぞ。

俺もな 現役時代 バトンを 落っこしちまって それが 原因で インターハイは パアになった。それでも 俺は 4継の夢を 捨てきれずに 大学 入ってから 目指してた。

けどな ひざを 壊しちゃってな あきらめなきゃなんなくなった。

けど やっぱり どうしても あきらめきれない。だから 俺は ひざに 爆弾 抱えたまま 痛み止めの注射を打って レースに出た。

結果 惨敗したよ。チームに迷惑かけて おまけに 選手生命も失った。

[三輪先生:俺が 意地悪してるとでも 思ってるのか]

一つのケガは 完ぺきに治さないと ほかに 負担をかける。ケガは ケガを呼んで どこもかしこも 壊れてしまう。後から 悔やんでも遅いんだ。だから 今 俺が お前たちに 教えてやれることは まず ケガをしないこと。もし ケガをしてしまった場合は 焦って 無理をしないこと。そして チームメイトに 迷惑をかけない チームメイトを大事にする。この 三つだ。

特に 三つ目は 大事なんだぞ 鍵山。

バトンの中は 何で 空っぽになってるか 知ってるか？ こん中には な 気持ちが入ってた。「頑張って 次の走者に 渡してくれ。この バトン つないでくれ。頼んだぞ」っていう気持ちだ。それは 走ってるヤツだけのじゃない。補欠で 走れないヤツの気持ちも スタンドで 応援してる仲間の気持ちも みんな ひっくるめて入ってる。もし バトンミスで つながらなかったとしても その気持ちだけは ここに入ってる。入り続けている。それは 今のお前たちだけの気持ちじゃない。去年 卒業した先輩の気持ちも その前の先輩のも その前も その前も。ずっと その気持ちは バトンとともに 受け継がれているんだよ。お前らが 練習で使ってる あの 古いバトン な あれは 俺が 落っこした バトンなんだよ。俺のせいで 落としたのに 次の走者 それ拾って 最後まで 全力で 走り抜いてくれた。ダントツ ビリで 惨めな結果だったけど そいつは そいつは最後まで 力を抜かなかつた。だからなのかな そのバトン 大塚先生が もらってきてくれてさ この悔しさ 忘れんなって。ミスなんか 誰にでもある。へこんでる暇があったら走れって 大塚先生が 書いてくれたんだ。それ以来 いろんな選手が あのバトンで 練習してきたってことだ。

神谷。

神谷新二: はい。

三輪先生: 一ノ瀬。

一ノ瀬連: はい。

三輪先生: 根岸。

根岸康行: はい。

三輪先生: 桃内。

桃内 : はい。

三輪先生: バトンを持って 走るヤツは バトンに込められた願いを 気持ちを
絶対 忘れるな!

神谷新二, 一ノ瀬連, 根岸康行, & 桃内: はい!

三輪先生: どうだ? 鍵山。ホントに 辞めちゃうのか?

一ノ瀬連: ハア… まいったな。みっちゃんに あんな過去が あったなんてな。

神谷新二: バトン ミスったのは 河野さんから 聞いてたけどさ まさか ケガ
が原因で リタイアしたとはな。それほどまでに 継に こだわって
たってことだよな。

桃内 :なのに そんな大事なバトン 俺 なくしちゃって。もう 責任 感
じます。

根岸康行: 鍵山のヤツ ホントに 辞めるつもりなんかなあ。

一ノ瀬連: どうした?

桃内 : いや あれ。

一ノ瀬連: うん?

桃内 : あれ 鍵山じゃないっすか?

根岸康行: 鍵山?

神谷新二: 何やってんだ? あいつ。

おい 鍵山 お前 何してんだ!?

鍵山義人: この辺に あるはずなんです! \N絶対 あるんです!

根岸康行: 何が?

鍵山義人: バトンです。

一ノ瀬連: バトン?

根岸康行: 春高のバトン ここに捨てたのか?

鍵山義人: すいません! でも 俺 悔しくて…。4継 走ったことで ケガした
ことが すげえ悔しくて。それで 何か バトンに 八つ当たりして。
それに 俺がいなくても みんなで 4継 練習してるとこ見てたら
何か 余計 腹 立ってきた。

じゃあ 俺じゃなくても いいんじゃないかよって むかついて。そ
れで むしゃくしゃしてきて。でも そんな大事な バトンだなんて
知らなくて。それで バトン盗みだして ここから ほうり投げて。

神谷新二: 鍵山。

鍵山義人: すいません。 ホント すいません!

神谷新二: よし! 俺らも捜すぞ。

根岸康行: よっしゃ! 捜すか。

桃内 : やったるでー!

根岸康行: みっちゃんや 河野さんに 怒られっからな。

一ノ瀬連: それだけじゃねえぞ。 あの大塚にも どなられるからな。

桃内 : えーっ! 勘弁してくださいよ もう。

神谷新二: よーし! みんな 突撃! よっしゃ!

桃内 : あーっ!

神谷新二: あった…。みんな あったぞーっ!

桃内 : アッハハハ! 鍵山!

神谷新二: あったぞーっ! あったぞーっ!

桃内 : 鍵山 あったぞ!

根岸康行: 鍵山 よかったな! 鍵山!

一ノ瀬連: おい 新二 パス。

根岸康行: おい 新二 パス。

<バトンが つながった。心も つながった。速くなる。もっと速く走る。シンプルだけど でっかい夢。夢に向かって 俺は走る!>

『裸足の シンデレラボーイ』

Episode 4 (36:55)

-----インターハイ 支部予選-----

神谷新二: 大丈夫かな?

鳥沢圭子: あと 二人 抜けば 都に行ける。あと 残り 1 0 0 0メートル。今が いちばん 苦しいところ。

神谷新二: 谷口! 頑張れ!

鳥沢圭子: 前の二人も かなり ギリギリだと思う。スパートできれば 抜ける。

神谷新二: スパート?

鳥沢圭子: スパートは ほとんど 気力なんだ。死ぬくらいの気力がないと スパートできない。

神谷新二: 谷口。頑張れ。

鳥沢圭子: してる! スパートしてる!

神谷新二: 谷口! 谷口! あと 一人だ! 頑張れ!

鳥沢圭子: あっ! 距離が足らないかも!

神谷新二: 谷口…。

谷口若菜: 神谷君…。都大会 行けるよ。都大会 わたし 行ける。

-----インターハイ 都大会-----

「まるで 初夏のような 暖かさです。今日は まさしく 五月晴れ。きっと よい一日と なることでしょう」

桃内 : あざーす! 僕は 今日 あなたのために マッハで走ります!

サポーター: ファイト! ここ 粘って 狙って! まだ いける…! ファイト!

神谷新二: 五島は いい位置で 走ってたのに 最後のハードルを倒してさ…。惜しかったよ。

一ノ瀬連: 入江も予選落ちか。

神谷新二: 谷口もダメだった。

一ノ瀬連: ヘコんでる?

神谷新二: いや。「都大会に出場できて 自分なりの ベストを尽くせただけで満足だ」って。「いい思い出になった」って 言ってる。

一ノ瀬連: 実は 強い子なんだよな。谷口は。

悪いな。ちょうど重なって 見に行けなくて。

どうだった?

鳥沢圭子: 関東は遠かったよ。

目いっぱい やったし 調子も悪くなかったし 出せる力 全部 出したから 後悔なんて 全然 ないから! ちくしょー。悔しいよ。

桃内 : 根岸先輩。大丈夫すか?

根岸康行: もう ダメ。死にそう。

三輪先生: 運がなかったよ 根岸。今年は ロング スプリントに 速いやつがそろってた。慰めには なんねえだろうけど 俺は 誇りに思う。お前の勇気ある レース 見て 俺は 泣きそうになった。

根岸康行: ありがとうございます。

三輪先生: 今年は ついてねえなあ。ちくしょー!

桃内 : 見ました? みっちゃん目の。ありゃ 「泣きそう」 じゃなくて 泣いてましたよ。

根岸康行: お前たちが うれし泣き させてやってくれよ 4 継で。

桃内 : 分かりました。

根岸先輩。 お疲れさまでした!

鍵山義人: 部長。 具合でも悪いんすか?

一ノ瀬連: 腹 痛えのか?

神谷新二: 1 回きりって 思ったんだ。

一ノ瀬連: 何だ? 急に。

神谷新二: リレーは メンツも変わるし 同じメンバーで走っても 1 回 1 回が全部 違って 本当に 1 回きり。 二度と走ることはない。 だから… 最高の… リレーがしたい。

< 1 回きりの 最高のレース >

< 1 回きりの 最高のレース >

< リレーなら 四人なら きっと できる >

都大会 4 継 決勝

位置について。 よーい。

はい! はい!

はい!

桃内 : 待って!

根岸康行: オーケー オーケー! ギリギリ 関東 行けるぞ。

神谷新二: ひでえ走りだ!

鍵山義人: すいません! 力 出せませんでした。 バトンが流れてしまって。 すいませんでした!

根岸康行: もっと練習するんだな。

神谷新二: もっと もっと練習して 次は 結果を出す。 いや 出してみせる。

三輪先生: いよいよ 関東だ。 俺は この 4 継メンバーなら 十分 インターハイに行けると 思ってる。

神谷新二: みっちゃん。 俺たちも そう思ってるよ。 これからの追い込みしだいでは 鷺谷を抜いて トップで インハイへの切符を 手に入れることだって 可能だ。

みっちゃん。 前に そう言ってくれたよね?

[2 年・冬

三輪先生: 鷺谷とのタイム差は 0. 8 2 秒。 そう簡単に 縮まる差じゃない。 ただな 前の走者が もう一息 勢いよく ゾーンに突っ込む。 次の走者が 一足 伸ばして 引っ張る。 それで スムーズに バトンを渡せたら お互いの加速で 0. 1 ずつ 3 回のバトンパスで 合計 0. 6 近づく。 ただの数字だと思うなよ。 空を飛べというほどの 不可能じゃないって話をしてんだ。

それと もう一つ。 神谷の走りだ。

神谷新二: 俺の?

三輪先生: 神谷は 無限の可能性を秘めた ばくちのような男だ。 ツキがあれば バカ勝ちするかもしれん。 どう思う? 一ノ瀬。

一ノ瀬連: 新二は もっと仙波を追える。バトンゾーンで ちゃんと加速で
 できれば もっと行ける。

三輪先生: うん。そこでだ。バトンパスを オーバーからアンダーに変えよう。

神谷新二: アンダー!?

根岸康行: アンダーパスは 四人の実力差が少ない メンバーに 有効なん
 ですよ? ナショナルチームや 最高に速い大学の チームが 採
 用している方法だ。

三輪先生: 桃内。 ちょっと前に。

桃内 : はい。

三輪先生: オーバーの場合は バトンの受け手は 手のひらを上に向けて
 待ってて そして 前に バトンを 押し込むように パス。
 アンダーの場合は 腕を下げ気味にして 渡し手は 下から上に
 押し込むように そして 受け手は 上から そのバトンをつか
 む。この際 握手するのが アンダーのコツだ。つまり どういう
 ことか 分かるか?

桃内 : えー… あっ! 受け渡しが 小さい動きで できるから 素早く
 パスできるって ことですかね?

三輪先生: うん。でも それだけじゃないぞ。ほかにも メリットがあるんだ。
 何だ? 一ノ瀬。

一ノ瀬連: より普通に 走っている動きを 崩さずに 受け取ることができる。
 つまり すぐに全力疾走に 入れるってこと。

神谷新二: タイムロスが少ないってのは いいけど タイミングの取り方が
 オーバーより デリケートで 難しいですよ?

三輪先生: そう。 でもな うちのチームには アンダーが向いてる。 鷲谷
 との差を縮めるには いや 全国を狙うには アンダーが有効なん
 だ。だから とことん アンダーパスの練習 あるのみだ。]

神谷新二: 鍵山。 大丈夫。 やれるよ。

鍵山義人: 頑張ってみます。

神谷新二: よーし! 打倒 鷲谷! 目指せ 40秒台!

三輪先生: だったら 早速 アンダーパスの猛練習だ。いいな!

神谷新二, 一ノ瀬連, 桃内, & 根岸康行: はい!

鍵山義人: はい!

あーっ!

うーっ!

桃内 : 鍵山が ヤバイっすよねえ。あのバトン 見てると どう考えても
 リスク 高いっすよ。それに バトンに関して言えば 根岸さんのほう
 が 断然 安定してますし。一ノ瀬さん どう思います?

一ノ瀬連: 俺は ネギのほうが 入れやすいかな。

桃内 : ですよねえ。

神谷新二: 鍵山を外す?

桃内 : 関東大会 抜けるには 根岸さんのほうが 絶対 安全です。

神谷新二: ネギに走らせるってことか?

桃内 : ホントは 部長も そのほうがいいって 思ってるでしょう?

神谷新二: まあな。みっちゃんに言いに行くか。

桃内 : お願いします。

一ノ瀬連:その前に ネギだろう？ ネギの気持ちを 確かめろよ。
 神谷新二:あっ…。 うん。

根岸康行:俺は走らない。

神谷新二:ネギ…。

根岸康行:理由は 鍵山は俺より速い。ただ それだけだ。

一ノ瀬連:でも あのバトンじゃ…。

根岸康行:守るなよ！ 攻めろよ！俺が入ったら 無理だけど 鍵山が 完全に
 フィットしたら インターハイで 優勝も狙える！そういう チームに
 なったんだよ。うちは。インハイに 走りに行くんじゃない。全国制
 覇だ！勝ちに行くんだ！日本一だよ！お前ら そういう夢を 見ねえ
 のかよ？

「はい！」

神谷新二:今みたいな感じで
 スーツと近づいて サッと渡しゃあいいんだ。

鍵山義人:はい。

神谷新二:お前は ただ バタバタ走ってきて グイグイ ねじ込もうとしすぎ
 なんだ。違いが分かるか？

鍵山義人:あの…。

神谷新二:うん？

鍵山義人:根岸さんのほうが いいんじゃないでしょうか？根岸さんは 3年生
 で 今年が最後ですし それに バトンワークも 根岸さんのほうが
 俺よか 全然…。

神谷新二:ネギは 絶対 そうは考えない。絶対だ。ネギは 俺らに言ったんだ。
 「インハイで 優勝を狙え」って。

鍵山義人:優勝ですか？

神谷新二:ああ。 目標じゃないぞ。 夢だ。

鍵山義人:夢…。

神谷新二:何か ワクワクするじゃねえか。 しねえか？ お前。

鍵山義人:します。

神谷新二:ネギも言ってたけど お前のバトン 大体 形はできてると思う。
 あとは 実際に合わせるときに 同じように できるかってだけ。

鍵山義人:はい。

神谷新二:まっ あとは しっかり 練習 あるのみだな。

鍵山義人:はい。

神谷新二:よし。 じゃあ もう1回 見るぞ。

鍵山義人:お願いします。

根岸康行:何か えらい汚れてたからさ 済んだら すぐ グラウンド 行くよ。

神谷新二:ネギ。

根岸康行:うん？

神谷新二:鍵山の バトンの面倒を 頼む。

根岸康行:えっ？

神谷新二:お前が みっちり 教えてやってくれ。 春高の4継 お前に かかっ
 てるってことだよ。

根岸康行:プレッシャー かけんなよ。 2x

神谷新二: かけるさ。お前が でっかい夢 見るから。俺らも 同じ夢 必ず見るから。

[根岸康行: 実現する夢さ]

根岸康行: フッ。

神谷新二: フッ。

桃内 : はい。

神谷新二: バトンに もっと気持ちを入れろ!

根岸康行: もっと押すんだ! 押せ!

鍵山義人: はい。

神谷新二: だいぶ 短くなったよな?

桃内 : ういっす!

根岸康行: 斜め下に 突き刺せ!

鍵山義人: はい!

ちくしょー!

すいません 一ノ瀬さん! まだ しっくりこなくて。

根岸康行: 鍵山。 いいか? そーっと入れろ。連に渡そうと思うな。とにかく 連に触れ。そーっと触れ。

鍵山義人: はい。

根岸康行: スピードだ!

鍵山義人: はい!

根岸康行: 鍵山! 気合 入れてけ!

よし 鍵山! 追ってけ 追ってけ! いけ!

いいか? 鍵山。

自分じゃなくて 相手のことを考えろ。

鍵山義人: はい。フッ。

根岸康行: 泣くなよ。

別に 怒ってるわけじゃ ねえんだからさ。いいか?

いかに 自分の仕事を 早く終わらせるかじゃなくて いかに 次の走者が 走りやすくするか。それを いちばんに考えろ。

鍵山義人: 相手のことを?

根岸康行: そうだ。そう考えてたら 今 お前が やったみたいに 相手の手に たたき込むような バトンパスには ならないはずだぞ。

鍵山義人: はい!

根岸康行: よし。 もう1回。

鍵山義人: はい!

根岸康行: 行ってこい。

鍵山義人: はい!

一ノ瀬連: よし!

根岸康行: 鍵山! だいぶ よくなってきたぞ。 もう一歩だ。

一ノ瀬連: はい!

桃内 : よし。 はい。

神谷新二: 一度 感覚を つかみさえすれば あとは 繰り返し 体に たたき込めば いいだけなんだからな。

鍵山義人: はい!

神谷新二: よし! じゃあ もう1本!

根岸康行: いい感じで 連につなげ。

神谷新二: その いい感じが 俺まで つながってきたら すげえ タイムが出る。

根岸康行: 一走が 勢いつけたら 次は 倍 倍で来るんだ。

一ノ瀬連: 思いきって 来い。俺 信じて 突っ込んで来い。

神谷新二: 任せたぞ 切り込み隊長!

鍵山義人: はい!

桃内 : よし! じゃあ もう一息 いっちゃいますか?

神谷新二, 一ノ瀬連, 根岸康行, & 鍵山義人: おう! よっしゃ!

鍵山義人: はい。

はい。

神谷新二: やった!

根岸康行: よし!

鍵山義人: よし!

根岸康行: うまくいったじゃねえか! 鍵山!

一ノ瀬連: これで 俺も安心して 思いきり 引っ張れるよ。

桃内 : よかったな。

根岸康行: 今ので いけるぞ。

鍵山義人: はい!

神谷新二: コンニャロー! ヤッホー!

鍵山義人: イエーイ! イエーイ!

鳥沢圭子: 大丈夫だった?

谷口若菜: うん。

鳥沢圭子: まあね 何かあるね。

谷口若菜: あっ!

鳥沢圭子: ははー。 わたし 学校に 忘れ物したから 先に行行って。 じゃあ。

谷口若菜: えっ!? あっ! 待って 圭子!

神谷新二: ずっと前から 決めてたんだ。インターハイが終わったら 俺の気持ちを 伝えようって。ずっと前から 思ってた。それまで 待っててくれるかな?

谷口若菜: はい。

-----インターハイ南関等大会-----

桃内 : アッハハ! でっけー!

神谷新二: すげえな。 行くぞ。

新二の父: もっと こっち こっち。

新二の母: ゴールに近いほうが いいわよ。 ねえねえ 新二の父…。

新二の父: だから こっちがいいんだ。

おお 新二。

新二の母: えっ? 新ちゃん!

新二の父: 今日は もう カメラアングル バッチリだぞ。

神谷新二: 健ちゃんは?

新二の母: うん 連絡はしたんだけど。

新二の父: リハビリ 始まったから 忙しいんだよ。

神谷新二: そうか…。

新二の母: 健ちゃんの分も わたしが バッチリ 応援するからさ。

神谷新二: うん!
 新二の父: 頑張れよ。
 神谷新二: ありがと。

神谷新二: お前 100メートルで インハイ チャンピオンに なることは
 考えねえのか?

一ノ瀬連: 目指してるよ 一応。
 神谷新二: 一応 じゃねえよ。もっと 強くだよ。
 一ノ瀬連: 目指してるよ 本気で。
 神谷新二: そっか。

あいつ 相変わらず 偉そうだよな。俺 今まで あいつのこと見ると 正直 怖かったよ。でも 今は そうは思わない。N やっと 一緒に走れる。そんな感じ。

仙波 : 神谷。 秒 切ったらしいな。ああ。一ノ瀬も 随分 体力 つけたらしいじゃないか。それなりに。N 面白くなってきたよ。敵がいらないじゃ 張り合いがないからな。

一ノ瀬連: フッ…。
 神谷新二: ベストを尽くすよ。
 根岸康行: えいっ!
 ちょっと すいません。
 新二と一ノ瀬 すごいな…。

根岸康行: いよいよ 決勝だな。頑張れよ。

桃内 : ういっす! ワクワクするな 鍵山。

鍵山義人: はい。

神谷新二: 桃内。 思いきって来いよ。

桃内 : もちろんっすよ。攻めていきましょう。攻めて。

河野 : おい! 絶好調だな。

神谷新二: 河野さん! 守屋さんも!

河野 : すごいな 神谷 一ノ瀬。100の決勝 見たよ。二人そろって インハイか。 やったな!

一ノ瀬連: ありがとうございます。

神谷新二: 来てくれて うれしいっす!

河野 : 春高 始まって以来の快挙 成し遂げましたね。

三輪先生: まだ 4継が残ってる。

河野 : あのさ 神谷。 次の4継の 決勝 これ 使ってほしいんだけど。

桃内 : おっ 鉢巻きじゃないすか!

河野 : おう 根岸の分もあるぞ。

根岸康行: はい? えっ?

河野 : 走るの 4人だけどリレーチーム 全員がメンバーだからな。

根岸康行: ありがとうございます。

神谷新二: 手作りですか?

河野 : 若干 見苦しいけどな 縫い目とか。

桃内 : いや いや いや もう めっちゃ うれしいですから。ありがとうございます!
 ございます!

一ノ瀬連: カッキーな。

神谷新二: 健ちゃん!

神谷健一:おう。

一ノ瀬連:先に 行ってる。

神谷新二:健ちゃん 来てくれたの。松葉づえ 取れたんだ。

神谷健一:お前 メートル すげえ速かったな。

神谷新二:見てくれたんだ。

神谷健一:なあ 新二。昔 よく 一緒に走ってたって話だけだな。

神谷新二:うん。

神谷健一:お前は 俺が速かったって言うけど。

神谷新二:速かったじゃん。俺が 「待って」 って言っても 健ちゃんは いつも 待ってくれなかった。

[健ちゃん 待って!N健ちゃん 待ってよ!健ちゃん 待って!]

神谷健一:いつのころからか その 「待って」 っていう声が 聞こえなくなったんだ。

神谷新二:えっ?

神谷健一:気がついたら 新二が隣にいた。

神谷新二:嘘。

神谷健一:嘘じゃねえし。足は お前のほうが速いんだよ。俺は お前に負けんのが嫌で お前と走んの やめたんだから。

神谷新二:覚えてない。覚えてんのは 健ちゃんの 背中だけだよ。

神谷健一:お前は 俺のこと すげえ すげえって言うけどさ…。お前だって すげえんだよ。お前がいたからこそ 俺は 速さよりも 技術を磨いたんだ。フリーキックとか フェイントとか。

俺のサッカーは お前のお陰だよ。

それ 使ってるの?

神谷新二:うん。すげえ大事にしてるよ。

神谷健一:最高の走り しろよ。

神谷新二:うん。健ちゃん もう 帰んの?リレーの決勝 見てくんないの?

神谷健一:悪いな。これから リハビリなんだ。新二に 追い抜かれないように 俺も 頑張らないと。

[健ちゃん 待って!健ちゃん 待ってよ!健ちゃん 待って!]

神谷新二:健ちゃん。健ちゃんが 復帰第一戦で 履くスパイクは 俺が プレゼントするよ。

神谷健一:楽しみにしてる。

神谷新二:ねえ みっちゃん。

三輪先生:うん?

神谷新二:ずっと つながってんだね。先生たちのころから… いや もっと ずっと前から ずっと 春高の継は 走り続けてるんだね。

三輪先生:ああ そうだ。

壮大な バトンパスだなあ。何人に なるんだ?

神谷新二:俺らは 走って ナンボだ。全開でいくぞ!

一ノ瀬連, 根岸康行, 桃内, & 鍵山義人: はい!

神谷新二: 春高 ファイト ファイト ファイト ファイト!

一ノ瀬連, 根岸康行, 桃内, & 鍵山義人: オー オー オー オー!

神谷新二: 春高 ファイト!

一ノ瀬連, 根岸康行, 桃内, & 鍵山義人: オー!

神谷新二:よし!

[健ちゃん: 夢は? お前の夢は 何だ?
 一ノ瀬連: お前。 ボールなんて なけりゃ もっと速く 走れるのに
 三輪先生: スプリントの王者に なれるかもしれねえな
 谷口若菜: 「可能性」って 言ってくれたよね
 根岸康行: そういう夢を 見ねえのかよ?
 鳥沢圭子: 走らない あんたは 格好悪いよ!
 三輪先生: きっと インターハイを 狙える選手になれるさ
 健ちゃん: やるからには 高い目標 夢を持ってよ
 神谷新二: 速くなる。 もっと]

「ただいまから 南関東 男子…」
 新二の父: お新二ー!
 新二の母: 新ちゃん!
 河野 : 神谷! いけー!
 新二の父: 新二ー! 新二 頑張れ!
 新二の母: 新ちゃん 頑張って!
 河野, 守屋: 頑張れ!
 位置について。 よーい。
 根岸康行: いけーっ! 鍵山! 飛ばせ!
 鳥沢圭子: 一ノ瀬! 頑張れ!
 根岸康行: 一ノ瀬! いけ!

神谷新二: 勝った…。 勝ったぞー!
 鍵山義人: やったー!
 河野 : やったー! すごい!
 根岸康行: やった! 優勝だ! みっちゃん!
 三輪先生: やった!
 谷口若菜 & 鳥沢圭子: やった!
 新二の父: やった! 新二! 新二 やったよ!
 新二の母: やった やった! 新ちゃん!
 たったの 0.01秒の差よ。
 新二の父: 違う。0.01秒も 差がついたんだ。
 <瞬間 風のように走れた>
 <一瞬の風になれた>
 <だから これからも 俺は 走り続ける。俺たちは 走り続ける>